



運用資産190兆円の「アムンディ」ってどんな会社



アムンディ・アセット・マネジメントはパリに本社を置く欧州最大の資産運用会社。2009年にフランスを代表する大手銀行のクレディ・アグリコル、ソシエテ・ジェネラルの両社の資産運用会社が統合して設立された。

運用資産は190兆円

その後2017年には資産運用会社パイオニア・インベストメンツと経営統合し規模を拡大。2018年6月時点の運用資産は約1兆4660億ユーロ（約190兆円）に達する。

グローバル・スコープとローカル・ルーツが同社の指針で、グローバルなネットワークと地域に密着したサービスに重点を置き、対象企業の財務要因に加え、環境（E）、社会（S）、ガバナンス（G）のESGを加えた投資姿勢を取っている。

「企業が持続的な成長を実現し、経済的のみならず社会的、文化的な使命を達成するためにはESGへの配慮が必要不可欠」との考えがあるため、この方針に沿った長期的な基準に基づく判断を行うという。

日本での源流は山一系企業

日本では1971年11月設立された山一投資カウセリングが源流。1998年にソシエテ・ジェネラル投資顧問（現アムンディ・ジャパンホールディング）が山一投資カウセリングの主要株主となり、2010年にクレディ・アグリコル・アセット・マネジメントと、ソシエテ・ジェネラル・アセット・マネジメントが合併して、社名をアムンディ・ジャパンに変更した。

2018年6月時点のアムンディ・ジャパンの運用資産は約5兆2696億円（うち投資信託業約2兆4119億円、投資顧問業約2兆8577億円）に達する。

同社がアムンディ・ジャパンに社名を変更した2010年7月に以降に大量保有報告書を提出したのは22社分。社名変更以前のソシエテ・ジェネラル・アセット・マネジメントが保有していた株式で、保有割合を増やした企業が2社、減らした企業が10社、新規に保有したのが10社あった。

この1年間（2017年10月－2018年9月）の売り買いは3社で、建設の日本基礎技術、輸送用機器のフジオーゼックス、情報・通信のアイネスの3社であった。大量保有報告書の提出状況からはあまり活発な動きは見られない。

アムンディ・ジャパンのローラン・ベルティオ社長は同社のホームページで「東京がアムンディ・グループの主要なグローバル運用拠点の1つである」としており、今後どのような展開を見せるのか。注目したい。

大量保有報告書により分かったアムンディ・ジャパンが保有する株式と保有割合

企業名保有割合（％）業種	日本基礎技術
5.01	
建設	
フジオーゼックス	
5	
輸送用機器	
協和エクシオ	
4.66	
建設	
山九	
4.36	
陸運	
第一精工	
4.28	
電気機器	
TOWA	
4.07	
機械	
アイネス	
4.01	
情報・通信	
森永乳業	
3.97	
食料品	
ショーワ	
1.43	
輸送用機器	
フォスター電機	
0.67	
電気機器	

文：M&A Online編集部

アムンディ・ジャパンの大量保有報告書はこちら